

入選

大好きネーネ

広島県

学校法人鶴学園なぎさ公園小学校三年 長田華穂

「どんな!?」

保健室にとびこんできたネーネ(姉)は、いきなりさげぽました。

休けい時間に高い竹馬から落ちた私は、竹馬の足を乗せるところにまたの迎りをぶつけ、たくさんの血がでて保健室へ運ばれていました。

私が「だいじょうぶよ」と答えると、ネーネは、少し泣き出しそうな顔になりました。

私がおかされていたベッドの近くの台の上には、保健室の先生がはきかえさせてくれる前の血だらけの下着がナイロンぶくろに入れてありました。

私は、ケガをした部分がはずかしくて、「あの下着を友達に見られたらどうしようかな」と心配していたのですが、ネーネは、何も言わずにネーネのポケットへ下着をしまつてくれました。

ネーネのおかげで、私の様子を見てくれた友達には、血だらけの下着を見られずすんだし、「どこをケガしたの?」と聞かれても、「ちよつとね」とかくす事ができました。

しばらくしてお母さんがかけ付けてきて、私は、車で病院まで運ばれました。ネーネも付いて来てくれました。

病院では、かんごふさんが、「ご家族の方は、待合室にいて下さい」と言いましたが、ネーネは、首を横にふり続け、ずっと

私のそばにいてくれました。

私は、とても心強くて、うれしくて、ネーネの手をにぎってました。

いつもは私に、やかましく注意ばかりするネーネなので、一日に一度は必ず頭にくるけど、でも「大好き」と感じる事もたくさんあります。

少し前に、「宿題をやらなきゃ、宿題をやらなきゃ」と思いながらもゲームをやめられずとやっついてお父さんからきびしくおこられた事がありました。その時ネーネは、「そんなにきつくおこらないで!今宿題を始めようと思っていたはずなんだから!」と私をかばってくれました。

私は、その時の事を思い出して、ますますうれしくなってネーネに笑いかけました。

「ネーネ、今日はいっしょにねてね」と私が言うと、ネーネは、「はいはい」とお母さんのような返事をしました。

いつもは、やさしいところをあまり見せてくれないネーネ。でも私にこまった事があつたら、かならず助けてくれるネーネ。そして今日何も言わずに下着をポケットへしまつてくれたネーネ。

いつもははずかしくて、「ありがとう」とはとても言えないけれど、今日だけは勇気を出して、ネーネに「ありがとう」と言ってみようと私は思っていました。